

信じたことは最後までやり通せ。じゃないと惨めなままだ。

エルヴィスへの愛にあふれた歌心が、
何故ここまで人の心を打つのか…
地味だけど素晴らしい映画だと思います。
そして、何とんでも
主演のジョン・マキナニーが
笑顔の可愛い人で、
すっかり彼の演技に
魅せられてしまいました。

音楽評論家・作詞家
湯川れい子

夢と現実の狭間に揺れながら その孤独な魂は、導かれるように 聖地<グレイスランド>に向かった――

精密金型工場で働きながら、夜はエルヴィス・プレスリーのトリビュート・アーティストとしてステージに立っているカルロス。エルヴィスの生まれ変わりであると信じる彼は、服装から乗る車、食べるものに至るまで、本物のエルヴィスとそっくり同じものを身につけて生活をしている。更には周囲の人間に自らを「エルヴィス」と呼ぶことを強要し、娘にはエルヴィスの娘と同じリサ・マリーと名付ける程の徹底ぶりに、かつて愛したはずの妻は愛想をつかし、娘を連れて別居してしまう。そんな中、ある予期せぬ出来事からカルロスは娘の面倒を見ることになるのだが、次第に父親としての自覚が芽生え始めていく。しかし、彼には絶対に叶えなくてはならない、あるひとつの夢があった。やがて妻と最愛の娘を残し、彼はエルヴィスに導かれるように聖地<グレイスランド>へ向かうのであった――

“エルヴィスの歌声に最も近い男”ジョン・マキナニーの熱演！ 「BIUTIFUL ビューティフル」「バードマン」の共同脚本、 アルマンド・ポー長編初監督作！

主人公カルロスを演じるのは、アルゼンチンでエルヴィスのトリビュート・アーティストとして、実際に活躍するジョン・マキナニー。本作が映画初出演だが、吹替えなしの圧倒的なライブシーンをはじめ、体型や容姿、その歌声まで、エルヴィスにそっくりな彼にしかできない役柄を見事に演じきった。そんな彼から物語の着想を得て、本作を作り上げたのは、アレハンドロ・ゴンザレス・イニャリトゥ監督の「BIUTIFUL ビューティフル」、「バードマン」あるいは（無知ももたらす予期せぬ奇跡）で共同脚本を務めたアルマンド・ポー。類まれな純粋さをもった、しかし不器用なひとりの男の魂の彷徨を、リアリティ溢れる演出とカメラワークで描いてみせた。監督デビュー作ながらも本作は高く評価され、国内外の映画祭で数々の賞を受賞し大きな脚光を浴びることとなった。この映画を観終えたものは、夢を追いかけ続けることの厳しさと美しさを同時に感じずにはいられないだろう。

監督：アルマンド・ポー / 脚本：アルマンド・ポー、ニコラス・ヒアコポーネ / 撮影：ハビエル・フリア / 製作：ビクトル・ポー、アルマンド・ポー
制作補：アレハンドロ・G・イニャリトゥ / 出演：ジョン・マキナニー、グリセルダ・シチリアニ、マルガリータ・ロベス
2012年/アルゼンチン/スペイン語・英語/カラー/シネスコ/91分/配給：ハイオニア映画シネマデスク



5月28日(土)よりロードショー!

ユーロスペース
EUROSPACE

特別鑑賞券 ¥1,400 (税込) 絶賛発売中! [当日: 一般 ¥1,800 のところ]

渋谷 Bunkamura 前交差点左折
03-3461-0211
www.eurospace.co.jp

